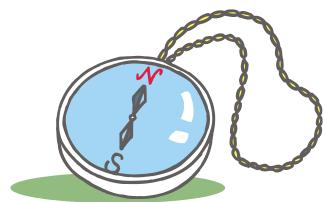


羅針盤



第 29 号 令和5年(2023年)1月10日(火)

◆ 「未来とは、今である」

「未来とは、今である」これは、アメリカの文化人類学者マーガレット・ミードが残した言葉です。タイムマシンといったようなものがつくられていない現代の私たちにとっては、今この瞬間を生きることが全てです。つまり、今という時間を積み重ねた先に訪れる時間が未来となるわけです。今現在の瞬間（とき）が未来へと繋がっている。言い換えれば、今現在の一瞬、その一瞬を変えていくことで未来を変えていくことができると言えるかもしれません。「今の頑張り」は未来の自分のために行うべきことであり、「今の行動」が未来の自分の行動を変えていくこととなります。未来を信じて「今を全力で過ごす」ということは、目の前の自分自身に与えられた課題を解決するために全力を尽くすということであり、そのことによって未来が拓けていくということを意味する言葉です。「今は気分が乗らない。だから、明日からやろう。」といったようなセリフを、生徒の皆さん自身も言い続けていたり、あるいは、何度も何度も先送りにしたような経験といったものがあるのではないかでしょうか。今はやりたくないことを未来の自分に押し付けてしまうこと、先送りにしたのはいいものの果たして未来の自分はその後ちゃんとやるべきことをやり遂げてくれたでしょうか。その答えが「NO」であるのなら、なおさら、「未来とは、今である」というこの言葉から学ぶべきことがあると思います。今一度、時間の重要性について振り返ることも悪くないと思います。残念ながら、時間は君たちを待っていてはくれません。「今、この瞬間」でなければ出来ないようなこともたくさんあるはずです。日ごろから大きく目をひらき、しっかりと耳を傾け、そして、経験を重ね、感じ、考え、学び、その繰り返しの中からいつか自分にとって、本当に必要なものが何であるのかが見えてくるのではないでしょうか。自分が本気で打ち込めることを見つけるためにも、すべては今の自分自身の行動にかかっているということを意識しながら、「未来とは、今である」という言葉を心に刻んで、この一年間も、充実した有意義な日々を過ごしてもらいたいと心より願っています。



◆ 一年の計は元旦にあり

新年を迎えて、気持ちも新たになり、今年こそはと意気込んで、「この一年間の計画を立てた」という人もいることだと思います。「一年の計は元旦にあり」という言葉を、生徒の皆さんも聞いたことがあるでしょう。新しく迎える一年の目標や計画は、その年の初めの元旦に立てるべきであるという意味で、つまりは、なにごとも、何かを始める時には、きちんとした計画をたてなくてはならないということです。そうすることで、計画的に物事を進めることができ、その一年が実り多きく、そして、有意義な時間を過ごすことができることを教えてくれています。夢や目標の実現に向けて、自分なりの計画を立ててみることはとても大事なことです。その計画の進み具合を確認することで、自分自身の成長を発見することができたり、日常の生活の中での達成感を得ることができ、自信へと繋がっていくものです。自分の目標達成に向けた意義ある計画を立てもらいたいと思います。

